

高知県鉄道ネットワークあり方懇談会について

平成31年4月25日 高知県

- ①四国の鉄道ネットワークの維持については、高速道路の延伸や人口減少が進むなど、周辺環境が大きく変化し、一層厳しさを増しています。
- ②先月、第4回「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」の中で、JR四国が管内の路線別収支を初めて公表し、本州と四国を結ぶ本四備讃線（瀬戸大橋線）以外は、全て赤字であるという情報が報道されました。
- ③鉄道は、公共交通の骨格として位置づけられるものであり、地域住民の日常生活における移動はもとより、交流人口の拡大や観光振興など、地域活性化を図るうえでも大きな役割を果たしています。
- ④また、四国全体で一つの鉄道ネットワークを形成していることから、仮に赤字を理由に一部の路線が廃止されてしまうと、ネットワークの効果そのものが全体として発揮できなくなります。
- ⑤JR四国や四国4県等で組織する「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」では、平成29年度から四国の鉄道ネットワークのあり方について意見交換を行い、今後の検討課題や取組について、秋頃には、中間整理をされる予定です。
- ⑥県としては、高知県版の懇談会を早急に立ち上げて、公共交通事業者などの民間事業者同士が、鉄道利用の増加による新たな収益を上げるための活性化策を協議し、実行に移していくことが必要と考えています。
- ⑦当会では、県がコーディネーターとなって、メンバーから鉄道利用の増加に向けた活性化策が提案され、地域の多様なモードの関係の方々の実行につながっていくよう、取り組んでいきたいと考えています。